

1. 背景とねらい

畜産物の低コスト生産のため優良品種を選定利用し、自給飼料の生産力の向上を図ることは重要である。サイレージ用とうもろこし栽培における輸入品種の占める割合は増加の一途をたどり、その流通品種数も多く、また流通体制の不安定なものがあるなど、品種選定上の混乱をまねいている。そこで優良品種の普及を図るため飼料作物優良品種選定試験ならびに系統適応性検定試験の成績をもとに、本県における適応性が高く有望と認められた輸入種6品種、国内育成種1品種を奨励品種に編入し、すでに種子流通の行われていない輸入種4品種を廃止する。

2. 技術の内容

(1) 奨励品種への編入

ア. 早晩性と品種名

早晩性	品 種 名	系統名	備 考
早生	オカホマレ	北交40号	奨励品種
早生	スノーデントF号クラス	JX77	推奨品種
早生	ロイヤルデント105T	T1200	推奨品種
早生	ゴールドデント1004	XL61	推奨品種
中生	スノーデントA号クラス	JX167	推奨品種
中生	バイオニア1号	P3352	推奨品種
中生	スノーデント1号クラス	G4578	推奨品種

イ. 編入の理由

現行の奨励品種に優っているか、あるいは同程度の成績が得られているため編入する。

(2) 奨励品種の廃止

ア. 早晩性と品種名

早晩性	品 種 名	系統名	備 考
極早生	バイオニアF号	P3965A	昭和59年編入, 推奨品種
早生	バイオニアA号	P3715	昭和56年編入, 推奨品種
中生	スノーデント1号	G4553	昭和56年編入, 推奨品種
晩生	バイオニア2号	P3382	昭和56年編入, 推奨品種

イ. 廃止の理由

近年種子流通が行われていないため廃止する。

3. 指導上の留意点

- (1) 栽培品種の選定にあたっては品種ごとの相対熟度および必要有効積算温度により、無霜期間内における有効積算温度の範囲内の品種を選ぶこと。
- (2) いずれも一代雑種であるので自家採種はできない。
- (3) オカホマレは長野種畜牧場で増殖中である。
- (4) 高冷地におけるサイレージ用とうもろこしの品種選定にあたっては、昭和54年度指導上の参考事項「高冷地におけるサイレージ用とうもろこしの品種適性」を参照のこと。
- (5) 栽培にあたっては栽植密度の確保に努めること。

4. 参考資料

- (1) 昭和55～60年岩手畜試成績概要書
- (2) 昭和61年農林水産省育成農産物新品种
- (3) 昭和55年度普及奨励事項および指導上の参考事項
- (4) 昭和54年指導上の参考事項「高冷地におけるサイレージ用とうもろこしの品種適性」

5. 試験成績

とうもろこし奨励品種への編入品種の来歴及び品種特性、栽培上の留意点

品種名 (登録番号)	オカホマレ (農林交26号) 奨励品種	スノーデント F号クラス 推奨品種	ロイヤルデント 105T 推奨品種	ゴールドデント 1004 推奨品種	スノーデント A号クラス 推奨品種	バイオニア 1号 推奨品種	スノーデント 1号クラス 推奨品種		
系統名	北交40号	JX77	T1200	XL61	JX167	P3352	G4578		
来歴および 育成場所	昭和53年北農 試で育成され た複交配一代 雑種昭和61年 6月6日登録	アメリカ ジャッキス社	アメリカ トロージャン 社	アメリカ デカルブファ イザー社	アメリカ ジャッキス社	アメリカ バイオニア社	アメリカ ファンクシー ド社		
粒質	デント	デント	デント	デント	デント	デント	デント		
早晚性 相対熟度(R.M)	早生 (100-110)	早生 (100-110)	早生 (100-110)	早生 (100-110)	中生 (110-120)	中生 (110-120)	中生 (115-125)		
特 性	試験場所 (年次)	畜試 (S59-61)	畜試 (S59-61)	畜試 (S59-61)	畜試 (S60-61)	畜試 (S59-61)	畜試・他 (S60-61)	畜試 (S59-61)	
	雄穂抽出期 月・日	8. 3	8. 2	8. 5	8. 7	8. 6	8.13	8. 7	
	絹糸抽出期 月・日	8. 7	8. 3	8. 7	8.10	8. 8	8.14	8. 9	
	黄熟期 月・日	9.21	9.13	9.20	9.21	9.23	9.28	9.26	
	稈長 cm	268	224	265	269	230	291	282	
	着雌穂高cm	125	79	118	119	109	148	137	
	生草重 Kg/10a	6,899	6,540	7,577	8,345	6,817	7,830	7,773	
	乾物重	全重 Kg/10a	1,900	1,940	2,131	1,998	1,920	2,103	2,097
		雌穂重 Kg/10a	926	1,097	1,092	993	1,082	1,084	1,105
	T D N収量 Kg/10a	1,354.0	1,423.0	1,538.0	1,429.5	1,407.7	1,515.0	1,516.7	
	耐倒伏性	強	強	強	強	強	強	強	
	耐病性	強	強	強	強	強	強	強	
	適 地	標高500m以下 の県下全域	標高500m以下 の県下全域	標高500m以下 の県下全域	標高500m以下 の県下全域	標高500m以下 の県下全域	標高500m以下 の県下全域	標高500m以下 の県下全域	
	栽培上の特徴と 留意点	倒伏性は強い。 黒穂病に対し てはタカネフ セよりは強い。 栽植本数は 7000本/10a とする。	着雌穂高が低 く、耐倒伏性 にすぐれている。 7000-8000本/ 10aの密植で多 収。早期栽培に も適する。	稈太く、耐倒 伏性強い。下葉 の枯れ上がり少 なく、ごま葉 枯病に強い。 雌穂の着生良 好で揃いがよ い。適正栽植 本数7000-7500 本/10a, 8500本 程度の密植で も雌穂割合低 下しない。	耐病性、耐倒 伏性にすぐれ る。生草収量 高く、緑度保 持がよい。栽 植本数7000本 /10a程度。	太茎で耐倒伏 性すぐれ、雌 穂収量多い。 下葉の枯れ上 り少なく緑度 保持にすぐれ ている。栽植 密度7000本/10 a程度。	初期生育・耐 病性・耐倒伏 性にすぐれて いる。雌穂割 合多く、雌穂 の先端稃実も 良好。栽植密 度6000-6500 本/10a程度が よい。	初期生育がよ く、太茎で草 丈高く、乾物 多収。栽植本 数は6500本/10 a程度として密 植は避ける。 雌穂割合多い。	